

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 11 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究 C

研究期間：2008～2011

課題番号：20510240

研究課題名（和文）四川省チベット地区における中国共産党の宗教政策及び統一戦線活動に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Religious Policies and United Front Activities of the Chinese Communist Party in the Tibetan Area of Sichuan Province

研究代表者

川田 進（KAWATA Susumu）

大阪工業大学・知的財産学部・准教授

研究者番号：10288756

研究成果の概要（和文）：本研究は以下の二つの仮説を実証することを目的とした。「チベット問題を読み解く鍵は東チベットにある」。「東チベットの宗教上を読み解く鍵は漢人信徒にある」。前者の仮説証明は概ね達成することができたが、後者は継続調査が必要である。調査対象地域は当初四川省カンゼチベット族自治州とアバ羌族チベット族自治州を予定していた。しかし、研究期間中に「2008年チベット騒乱」が発生したことにより、青海省内のチベット人居住地区も調査対象に加えた。「2008年チベット騒乱」について、その動向を時系列に追い、発生の原因と特徴をつかむことができた。中国共産党の宗教政策を検討するためにラルン五明仏学院とヤチェン修行地にて定点観測を実施した。統一戦線活動の実態を知る上で、ゲダ5世・ゲダ6世と中国共産党の政治的結びつきを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This research aims to verify the following two hypotheses:

- The key to resolving the Tibetan issue lies in eastern Tibet.
- The key to understanding religions in eastern Tibet is held by Han Chinese who practice Tibetan Buddhism.

While the former hypothesis has mostly been verified, further research is necessary to verify the latter. The regions of research interest were originally planned to be Garzê Tibetan Autonomous Prefecture and Ngawa Tibetan and Qiang Autonomous Prefecture in Sichuan Province. However, since the 2008 Tibetan unrest occurred during the research period, they now include the Tibetan-inhabited area in Qinghai Province. This research chronologically tracks the 2008 Tibetan unrest, resulting in the identification of the causes and characteristics of the incident. It also examines the religious policies of the Chinese Communist Party with the Serthar Buddhist Institute and Yarchen Uddiyana Meditation Monastery as stationary observation points. Moreover, it clarifies the political ties of the 5th and 6th Gedas with the Chinese Communist Party in an attempt to grasp the activities of the United Front.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：中国地域研究

科研費の分科・細目：複合新領域・地域研究

キーワード：中国共産党、宗教政策、民族政策、統一戦線、ラルン五明仏学院、ヤチェン修行地（亜青寺）、ゲダ5世（格達5世）、2008年チベット騒乱

1. 研究開始当初の背景

私は1991年以降、四川・青海・甘粛・雲南各省内のチベット地区で、中国共産党の民族・宗教政策に関する調査を17回実施し、20篇の研究論文を発表してきた。

少数民族地区の宗教政策研究は、中国政府にとって政治的に敏感な問題であり、中国国内の研究者は政府に批判的な内容を含む研究を実施することができない。日本を含む外国人研究者は四川省チベット地区における現地調査（宗教問題・民族問題）の実績が少ないのが現状である。

2. 研究の目的

「宗教問題」と「民族問題」は政治の動向と深く関わっており、21世紀の中国社会を読み解く重要な鍵である。本研究が調査対象とした四川省チベット地区とは、カンゼ州とアバ州であり、ともにチベット族を中心とした民族自治州である。対象時期は、主に中華人民共和国成立（1949年）から現在までとした。

研究の目的は二つの仮説「チベット問題を読み解く鍵は東チベットにある」「東チベットの宗教上を読み解く鍵は漢人信徒にある」を実証することである。

3. 研究の方法

- (1)以下の地点で現地調査を行う。ラルン五明仏学院、ヤチェン修行地、デルゲ印経院。
- (2)中国政府が公表した「文書」「公告」「地方志」の内容を分析し、四川省チベット地区における宗教状況を把握する。
- (3)漢人信徒が著したルポルタージュ作品から、ラルン五明仏学院とヤチェン修行地の歴史と構造、信仰状況を把握する。

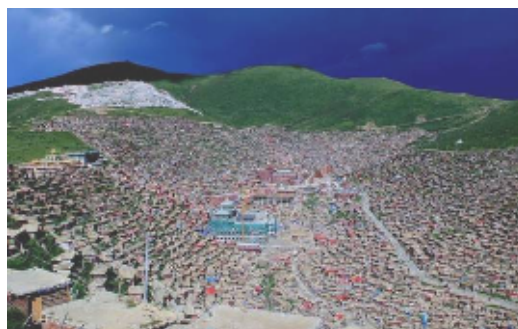
4. 研究成果

(1) 五明仏学院

四川省カンゼ州にあるチベット仏教圏最大規模の仏教学院である。1980年に高僧ジグメ・プンツォが創設し、1万人を越す学僧を抱えている。四川省党委員会は2000年頃より、強大な影響力を持つジグメ学院長の存在と急速に規模を拡大した仏学院を危険視し、暴力行為を伴う大胆な引き締めを実施した。

私は2001年、2004年、2007年に仏学院

を調査したことがある。本研究期間中、2010年8月、2011年8月に「仏学院における中



国共産党の宗教政策と統一戦線活動」「漢人信徒・出家者による信仰状況」を調査した。ジグメ学院長の逝去、「2008年チベット騒乱」を経て、仏学院の集団指導体制が発足し、漢人信徒の増加が仏学院の財政基盤を安定させていることが明らかになった。

図1 ラルン五明仏学院（2010年川田撮影）

(2) ヤチェン修行地

四川省カンゼ州にあるチベット仏教最大の修行地である。1985年にアチュウ・ラマが開設した。中国共産党は1990年代以後、各寺院の僧侶数に定員制を設けて宗教活動の過熱を抑制してきた。その結果、若い尼僧を中心とした宗教難民が発生し、ヤチェン修行地に流入してきた。1万人規模にまで肥大化した修行地に対して、四川省統一戦線工作部は2001年に弾圧を行った。私は2003年、2005年、2007年に現地調査を実施したことがある。



図2 ヤチェン修行地高僧居住区、管理委員会（2011年川田撮影）

本研究期間中、2010年8月と2011年8月に「ヤチェン修行地の構造」「カリスマ僧の動向」「漢人信徒の修行状況」を調査した。研究の成果はブッダ・リンポチェと漢人信徒の間の修行形態、白玉県公安局・宗教局による管理実態、アチュウ・ラマのカリスマ性に関する調査である。

(3) デルゲ印経院

デルゲ印経院は、四川省甘孜州徳格県に位置するチベット仏教徒の聖地である。印経院とは經典や各種文献を刻版・印刷する工房であるとともに、チベット仏教の教義と信仰を支える各種版木を所蔵する「知の保管庫」でもある。印経院は1729年の創設以来、刻版、製紙、製墨、印刷等の高度な伝統技術を約280年にわたって脈々と受け継いできた。そして約30万枚にも及ぶ版木にはチベット仏教各派の学問とチベットの文化がしっかりと刻み込まれている。私は2003年に文化大革命時期における印経院の管理状況について調査を行ったことがある。

本研究期間中、2010年に再度印経院を訪問し、ジグメ院長にインタビューを行った。その結果、文革時期に印経院を保護したのは、当時の徳格県党書記ヤンリンドジェであることを再確認することができた。



図3 徳格印経院經典販売所
(2010年川田撮影)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

- (1) 川田進「東アジア・フィールドワークの技法」『火鍋子』78号、翠書房、2011年148-160頁、査読無
- (2) 川田進「対外開放を阻んだ高地ザムタンの風土病——国境なき医師団と愛国衛生運動」『火鍋子』77号、翠書房、136-144頁、2011年、査読無
- (3) 川田進「玉樹に捧げる鎮魂の祈り——ラリン五明仏学院と三人の政府要人」『火鍋子』76号、翠書房、132-145頁、2010年、査読無

- (4) 川田進「石積の『僧院』で見た米中人権外交の夢——四川省石渠県ソングマニに刻まれた祈り」『火鍋子』75号、翠書房、112-123頁、2010年、査読無
- (5) 川田進「台湾人信徒がカトク寺で見た『光り輝く闇』」『火鍋子』74号、翠書房、64-74頁、2009年、査読無
- (6) 川田進「チベット周縁地域に築かれた宗教空間——「2008年チベット騒乱」と四川省甘孜チベット族自治州を中心に」『大阪工業大学紀要 人文社会篇』第54巻第1号、大阪工業大学、13-55頁、2009年、査読有
- (7) 川田進「蜂起・叛乱・文革——チベットを埋め尽くした治安維持部隊と紅衛兵」『火鍋子』73号、翠書房、84-97頁、2009年、査読無
- (8) 川田進「中国『百年の夢』、チベット『五十年の悪夢』——2008年チベット騒乱から北京五輪まで」、『火鍋子』72号、翠書房、2008年、70-83頁、査読無
- (9) 川田進「デルゲ印経院とデルゲ土司に見る中国共産党のチベット政策」『大阪工業大学紀要人文社会篇』第53巻第1号、大阪工業大学、2008年、19-50頁、査読有
- (10) 川田進「チベット流血、理は我に非は彼に——2008年ラサ騒乱と東チベットの動向」『火鍋子』71号、翠書房、2008年、98-113頁、査読無

〔学会発表〕(計6件)

- (1) 川田進「中国政府の宗教政策と「公益活動」——チベット系仏学院の震災救援活動を通じて」「宗教と社会貢献」研究会、國學院大學、2012年3月25日
- (2) 川田進「『2010年チベット騒乱』と中国チベット人居住地区における宗教調査」「宗教と社会」学会関西地区大会、佛教大学、2012年3月10日
- (3) 川田進「ヤチェン修行地におけるカリスマの動向——中国四川省の宗教政策」日本宗教学会、関西学院大学、2011年9月4日
- (4) 川田進「現代中国において2万人規模の宗教コミュニティがなぜ存続可能なのか——チベット仏教ヤチェン修行地におけるカリスマの動向」宗教社会学の会、大阪大学)、2011年8月27日
- (5) 川田進 大西広報告「チベット農奴制の歴史的な位置づけについて」へのコメント、日本現代中国学会関西西部会大会、大阪市立大学文化交流センター、2009年6月13日
- (6) 川田進「麻生晴一郎著『反日、暴動、バブル——新聞・テレビが報じない中国』」中国文芸研究会、同志社大学、2009年12月20日

〔図書〕(計1件)

- (1)川田進『アジア国際関係論』現代中国論研究会、1-109頁、2010年(単著)

〔海外現地調査〕

- (1)東チベット地域研究現地調査
期間：2011年7月28日～8月11日
場所：四川省甘孜州白玉県、色達県、甘孜県、アバ州アバ県、康定県、成都市
- (2)東チベット地域研究現地調査
期間：2010年7月28日～8月11日
場所：四川省甘孜州、徳格県、白玉県、色達県、馬爾康県、康定県、成都市
- (3)東チベット地域研究現地調査
期間：2009年7月28日～8月11日
場所：四川省甘孜州、青海省玉樹州、洛果州、西寧市、平安県
- (4)東チベット地域研究現地調査
期間：2008年7月25日～8月8日
場所：四川省成都市、青海省西寧市、果洛チベット族自治州、黄南チベット族自治州

〔その他〕

- (1)「グーグル中国撤退事件とチベット問題」
CBC放送(名古屋市)、2010年2月4日
- (2)「チベット騒乱とチベットの現状」 CBC
放送(名古屋市)、2009年8月27日
- (3)「ウイグル騒乱と民族問題」 CBC放送(名古屋市)、2009年7月9日

6. 研究組織

(1)研究代表者

川田 進 (KAWATA SUSUMU)
大阪工業大学・知的財産学部・准教授
研究者番号：10288756